B 4

近畿地方における近代後の衣生活

和洋女大文家政　鷹司綸子

目的　開港をさかいに流入し始めた欧米文化が、村や町の人々の生活の中にどのような変化をひきおこしたかを求めるものである。今年は近畿地方を対象とした。

方法　本学服装史研究室で行った明治生活調査・各地の地方誌・県郡市史・聚落調査報告書他の資料にもとずき考察を加えた。

結果　当地域は、商業の中心地大阪や永年の王城の地京都があり、伝統を重んじる生活が続いているが、そうした中にも洋風化は及んでいった。一方海辺の地では海からも文化の伝播が考えられる。ここには又有数の織物産地があり、産業面では開化魁の地でさえあった。しかし／歩都会をはなれると、第2次世界大戦まで従来の生活があまり変化なく続くところが見られるのは、"山"という生活の場のゆえんであろう。
西洋文化の浸透が洋風化のかたちでなく、むしろ"きもの"自身の新しい動きをひき起している京都の動向も、特筆すべきものと思われるのである。